

NT

NISSEKI TOKYO

2017
Autumn
Vol.15

特集

生きる 豊かに 人生を

～『支え合う』行動とその気持ち～



Contents

- 04 東京都支部創立130周年
- 06 れっどくろず News&Topics
- 特集**
- 08 **人生を豊かに生きる**
—『支え合う』行動とその気持ち—
- 18 Hospital Referral
武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院
- 21 献血 NEWS
- 22 福祉施設 NEWS
- 23 国際 NEWS
- 24 「赤十字子供の家」
幸せに成長していく子どもたちのために
- 25 行け!OLレポーター オカモト★ 日赤とつげきレポ —vol.9 赤十字子供の家編—
- 26 赤十字Supporters
- 27 活動資金協力者(社)・団体のご紹介
- 28 プレゼント
- 30 Rediscovery TOKYO —第8回 調布市・深大寺—

NT
NISSEKI TOKYO

Vol.15
2017年10月発行

バックナンバーは
こちらからお読み
いただけます。



■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 新宿区大久保1-2-15 Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後の
内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosstokyo/>

年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤
十字病産院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。



©Canadian Red Cross

12月1日～25日は「NHK海外たすけあい」キャンペーン

日本赤十字社は毎年12月1日～25日に、NHKと共催で募金キャンペーン「NHK海外たすけあい」を実施しています。お寄せいただいた寄付は、世界中の紛争、災害、病気で苦しむ人々の支援に役立てられます。皆さまのご協力をお願いします。

赤十字ならではの支援の特色

- 世界190の国と地域にある赤十字のネットワークを活用し、ニーズに即した直接的な支援ができます
- 日頃から地域に根ざして活動しているからこそ、いち早く継続的な支援ができます
- 中立の立場で活動しているからこそ、紛争地など国際社会の支援が届きにくい地域にも支援を届けられます

キャンペーンについて詳しくはこちら

日赤 海外たすけあい 検索

キャンペーンサイトは11月末OPEN予定。※募金の受付は12/1～12/25

イベント情報

赤十字シンポジウム2017

紛争下で狙われる医療支援

～救える命を、救いたい～

日程 10月28日(土) 14:00～16:00 ※時間は予定

場所 表参道ヒルズ地下3階 スペース オー

主催 日本赤十字社、NHK



応募方法、詳細はこちら→



河川という“自然”を正しく怖れる 支部初の河川講習に17人参加



救助用ロープを川へ投げ入れる受講者

東京都支部は7月30日、初となる河川講習を青梅市で実施、17人が参加しました。受講者は、河川での泳ぎ方として「視線は川下に。姿勢は仰向け、頭は川上、足は岩や障害物への衝突回避に川下へ」を確認しました。

2人1組で救助用ロープの投げ方や事故者のロープのつかまり方も体験。受講者は「川を流れる時のスピードが思ったよりも速くて怖かった」と話しました。

中高校生 & 大学生がソウルと北京で国際交流事業に参加

東京都支部では2001年から大韓赤十字社ソウル特別市支社（韓国）と北京市紅十字会（中国）との間で情報交換と交流を目的とした事業を展開しています。今年はJRC（青少年赤十字）の交流がソウルで7月24日から、ユースボランティアの交流が北京で7月31日から開かれました。

ソウルを訪れたJRCメンバーは10人。事前学習で日赤の活動や日本の文化紹介の練習を重ね、3か国での交流に臨みました。交流での公用語は英語。積極的にコミュニケーションをはかり、友情を育んでいる姿が見られました。参加メンバーは「海外のJRCとの活動の違いや文化に触れることができて刺激を受けた」「国を超えた友情を築くことができた」と語りました。

次いで北京を訪れたユースボランティアは5人。各国の活動について発表し合い、今後

さらに活動を推進していくため、国を超えた協力体制について意見交換しました。学生の間で流行っていることなど、各国の文化の話も盛り上がりました。

ユースメンバーからは、「語学に自信がなくコミュニケーションがとれるか不安だったけれど参加して良かった」「今回受けたおもてなしに感動した。東京で海外からの学生を受け入れる時にはぜひ手伝いたい」といった感想が聞かれました。



同世代との深い交流は貴重な経験になりました（北京）

日頃から災害に備える！ 大規模災害に対応するための災害救護訓練を実施

大規模災害等が発生した場合に現場に急行して初動対応を行う要員の能力向上を目的として、7月26日～28日の3日間、埼玉県熊谷市で先遣要員訓練を実施しました。東京都支部職員など関東甲越の赤十字施設から35人が参加し、雨まじりのなか、自己完結型の活動拠点を設営。寝食をともにしながら、

被災地での活動を想定した実践的な訓練をこなしました。

9月3日には東京都・調布市合同総合防災訓練に参加。「自助・共助」と「連携」をテーマに、多摩直下地震（M7.3）を想定して、住民による避難、防災機関による救出・救助や、日赤と東京都、調布市、調布病院、医師会等

が連携し、病院や緊急医療救護所において負傷者の医療救護活動などを行いました。

東京都支部では今後も、いざという時に人のいのちや苦しんでいる人を救うため、災害に備えた救護訓練を実施していきます。



息のあった活動のためには夜間も貴重な訓練時間です

医療救護所の運営訓練
実戦さながらの雰囲気

的確な情報収集は災害時に最も必要なことの一つ

求人

看護師を募集中！

東京都赤十字血液センターでは、献血の業務を担う職員を募集しています。

- | | |
|-------|---|
| 業務内容 | 献血者からの採血業務 |
| 勤務地 | 都内献血会場 （１）献血バス （２）献血ルーム |
| 勤務時間 | （１）8:50～17:20（早出・残業あり）
（２）9:40～18:10（献血ルームごとに時差出勤あり） |
| 採用条件 | 臨床での勤務経験がある正看護師資格をお持ちの方 |
| 雇用形態 | 嘱託職員（正規職員への登用実績あり） |
| 問い合わせ | 東京都赤十字血液センター（新宿区若松町12-2）
総務課人事係 TEL：03-5272-3513 |



移動採血車（献血バス）



勤務風景（献血ルーム）

大森日赤医師が 災害医療フォーラムで座長



フォーラムをコーディネートした松本部長

大田区主催の「大田区災害医療フォーラム」が9月9日、東京工科大学・日本工学院専門学校で開催され、大森日赤の松本賢芳医療社会事業部長が座長を務めました。

同フォーラムは、災害時の医療対策の充実を図ろうと、大田区災害医療コーディネーターである松本医療社会事業部長が大田区に働きかけて実現したもの。日本DMAT事務局長をはじめ、日本有数の災害医療の専門家が参加しました。

集団生活でリーダーを育てる リーダーシップ・トレセンを開催

東京都支部では毎年、夏に都内の青少年赤十字加盟校の児童・生徒を対象に「リーダーシップ・トレーニング・センター（通称：トレセン）」を開催しています。集団生活を通してリーダーを養成することが目的。ベテラン教員らがスタッフを務める赤十字独自のプログラムです。今年は8月2日～5日に実施され、86人の小中高生が参加。「リーダーに大切なことが何かわかった」（小学生）など、成長のあとが見られました。



相手の立場を理解できるリーダーになるために

皆さまのご協力をお願いします！ 災害義援金・海外救援金

現在、日本赤十字社では以下の災害義援金、海外救援金を受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしています。詳しくは日本赤十字社HPをご覧ください。

<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/>

豪雨被災地のアセスメント
に入る日赤救護班

受付中の災害義援金・海外救援金

国内

東日本大震災（2018年3月31日まで）
平成28年熊本地震災害（2018年3月31日まで）
平成29年7月5日からの大雨災害義援金（2017年12月28日まで）

海外

中東人道危機救援金（2018年3月31日まで）
2017年南アジア水害救援金（2017年10月31日まで）

※2017年9月13日時点

特集

人生を豊かに生きる

～『支え合う』行動とその気持ち～

人にやさしくするとき、
人が誰かの役に立ちたいと思うとき、
大切な人たちと幸せに過ごすための努力をするとき…

一人で生きるためではなく、
だれかのために行動することは、
自分の人生を豊かにしてくれるのではないだろうか。

今回の特集では、
ボランティア活動を続けて輝いている人や、
健やかに暮らすことをサポートする赤十字の講師、
また、「生きる」ことを研究し、人間性や社会性、
創造性にあふれる若者の育成に取り組む方にお話を聞いた。

人生を豊かにする方法を探ってみたい。

「ビューティーケアは、見た目と違って体力を使うんですよ」と話すのは、同奉仕団の森田清枝さん。この活動に関わって約20年になります。

独り立ちまで約半年

ビューティーケアの奉仕団員になるには、6時間の講習を受けることが必要です。入団後は、タオルを先輩の団員に渡したり、活動の様子を見学し、施設に慣れるところからスタートします。

「タオルで腕を温めますね。今日の体調はいかがですか？」——奉仕団のメンバーが利用者にやさしく語りかけながら、この日の活動がスタート。奉仕団員4人と中高生の体験ボランティア3人、計7人で20人近くの利用者をケアしていきます。

ネイルが大人気！

「お年寄りと接するのは、何気なく

やっているようで実は難しいんです。

同じように話しかけても、うまく「コミュ

ニケーションがとれないこともありま

す。そつした雰囲気を知ってもらった

ところから始めます」と森田さん。独り立

ちできるまで約半年かかるそうです。

笑顔が何よりの『褒美』

この日のボランティアに参加した中高生ボランティアは、高校1年の2人と中学2年の女子生徒。ネイルカラーを担当させてもらい、「喜んでもらえてよかった」「2回目の参加。前は緊張しすぎてしまったけれど、今回はお話もできて楽しかった」と感想を話してくれました。

団員歴7年の西久保宣子^{よしか}さんは、「今は亡き両親とあまり話ができなかったという思いから、誘われて団員に。お年寄りにニコツと笑ってもらえるのが何よりうれしいですね。他では得られない幸せを感じます」と語ります。

森田さんも、「人と直接ふれあうことができるのがビューティーケアの魅力。お年寄りとの出会いが励みになっています」と話します。「いい仲間に巡り会えたので、続けられています」とも。ケアする喜びと仲間同士の支え合い——それが活動を継続する原動力になっているようです。



やさしく話しかけながらハンドケアをする森田さん

ふれあい、支え合いながらボランティア

——東京都ビューティーケア赤十字奉仕団

赤十字には多くの奉仕団があります。その中のひとつ、「東京都ビューティーケア赤十字奉仕団」はハンドケアやフェイシャルケア、ネイルカラーなどを通して「ふれあい」や「癒やし」を提供しています。その様子を見せていただくとうと、高齢者施設「あそか園」(江東区)での活動にお邪魔しました。

取材・文 N T編集部

東京都ビューティーケア赤十字奉仕団

1976年に結成された麗人会を母体として2002年4月、現在の名称に。現在、98人が在籍。都内の高齢者施設や福祉園などで定期的に活動をしている。主なメンバーは60代の女性たち。家族や仕事も抱えつつ、助け合いながら活動が続いている。「活動を始めて20数年間、団員の結束で一度も施設とのお約束に穴をあけたことのないのが自慢です」(森田さん)。



ネイルカラーを真剣なまなざしで行う高校生ボランティア



ホットタオルで心も体も気持ち良く



奉仕団結成15周年感謝のつどい

こんな症状、思い当たりませんか？

1

☐ 片足立ちで靴下はけない

2

☐ 家の中でつまずいたりすべったりする

3

☐ 階段を上がるのに手すりが必要である

4

☐ 家のやや重い仕事に困難である

5

☐ 2kg 程度の買い物をして持ち帰るのが困難である

6

☐ 15分ぐらい続けて歩くことができない

7

☐ 横断歩道を青信号で渡りきれない

～7つのロコモチェック～

ロコモ
(ロコモティブシンドローム)

体を動かす骨関節・筋肉・神経などの運動器が衰え移動に障害を来し、生活の自立度が下がる状態のこと。介護が必要になったり、寝たきりにつながるおそれがあります。

ひとつでもあれば、今日から運動を始めましょう！ 健康生活支援講習教本から抜粋



誰もが自分らしく、健康で実りある人生のために

——日本赤十字社の健康生活支援講習

健康生活支援講習のワンシーン。「身振りをつけて大きな声で歌を歌いましょう！」

生など。しかし、講習の内容は男性も含め広く皆さんに知っていただきたいことばかり。社内研修でこの講習を取り入れてくださっている企業もありますが、おかげさまで好評です。

生活支援や介護を学ぶ

——講習の内容について教えてください。

3章で構成されています。第1章は健康寿命を延ばすための知識や、高齢者に起こりやすい事故の予防や手当てについて学びます。

第2章は、地域における高齢者の理解。地域でお互いが助け合えるよう、高齢者との関わり方について学びます。独居老人や老老介護（高齢者同士の介護）、認知症（認知症同士の介護）などの問題にも目を向け、地域の仲間づくりにつながればと考えています。

第3章は、介護が必要な高齢者の生活支援に役立つ知識を学びます。

高齢者にやさしい地域へ

——講習を通じて、日赤はどのような社会をめざしますか？

日本は現在、長寿世界一。諸外国が日本の高齢社会に注目してい

人としての尊厳を保ちながら

——健康生活支援講習の目的は？

健康上の問題なく日常生活を送れる期間のことを健康寿命と言いますが、この健康寿命を延ばすことが近年、重視されています。日赤はこの講習を通じて、誰もが迎える高齢期を、人としての尊厳を保ちながらその人らしく生きていくことをめざしています。

講習の柱は、①自分が健康で過ごし健やかな高齢期を迎える、②家族のために介護の知識を学ぶ、③高齢者へのボランティアができる知識・技術を身につける、の3つです。家族や地域で支え合いながら暮らしていくことを応援しています。

——自分自身の役に立ち、人の役にも立つことができますね。

高齢者への調査で「今後、どんなことをやりたいか」という問いに、この講習を取り入れてくださっている企業もあり、おかげさまで好評です。

なことをやりたいですか」と尋ねたところ、1位は「健康であること」、2位は「友人や家族と旅行や趣味を楽しむ」、3位が「何かに役に立ちたい」でした。自分が健康であることに加え、周囲の役に立ちたいと考えている高齢者が多いことがわかります。

男性にもぜひ受講を！

——平成28年4月にリニューアルされましたが、その特徴は？

現在は公助・共助への期待は薄く、自助や隣近所の助け合い（互助）の時代。健康寿命を延ばすための運動も紹介し、地域包括ケアシステム※を学ぶとともに、認知症や在宅での看取り、エンディングなどを盛り込みました。

——主な受講者は？

9割は65歳以上の主婦です。その他、介護関係の仕事をめざす学

生き生きと心豊かに暮らしていくために、健康は何よりも大切です。日本赤十字社では健康生活支援講習を通じて、自分らしく地域で暮らし続けることを応援しています。この講習の講師を務める日本赤十字社 事業局 救護・福祉部 健康安全課の清田敏恵さんに、講習のねらいや内容について教えていただきました。

（健康生活支援講習については裏表紙の案内もご覧ください）

聞き手 N T編集部



清田 敏恵さん
(日本赤十字社 事業局 救護・福祉部 健康安全課)

ます。それなのに、日本自身が高齢化をネガティブに捉えているように感じます。

今の高齢者は体も元気だし、人の役に立ちたいという思いを持っています。「もう歳なんだから」と能力が否定されず、どんどん活躍ができる社会、その実現のための一助になれば幸いです。子育てや仕事を終えて自由な時間ができる元気な高齢者の皆さんには、ぜひ、赤十字の講習を受けて地域デビューしてほしいですね。

日赤には全国で約1500人の指導員と、指導員を養成する講師約90人がいます。このリソース（資源）を、各地の地域包括支援センターなどでも活用していただければ。日赤としても今後、行政や企業などとのコラボレーションを追求していきたいです。

※地域包括ケアシステム：高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで送れるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムのこと。地域の特性にあわせ、自治体ごとに自主的に作り上げることが求められています。

経済的には豊かな日本ですが、それだけで私たちは幸せでしょうか？ 若者による無差別殺傷事件など凄惨な事件が後を絶たず、自殺者も年間3万人近くで推移しています。生きづらさを抱えている人も多いなか、どうすれば豊かな人生を送ることができるのでしょうか。かつて「癒し」ブームを巻き起こし、「生きる意味」を問い続けている文化人類学者の上田紀行・東京工業大学教授にお話を伺いました。

取材・文 NT編集部

あなたは本当に感動していますか？

いまの日本では、他人の目を気にして自分の意見を言わない人が多いですね。周囲に「変な奴」と思われまいよう、自分の気持ちを押し込めてしまっている。でも、それはかなり生きづらいと思いませんか？

砂漠の中に1人ボツンという状況と、渋谷や池袋などの雑踏のように大勢の人がいるなかで1人ぼっちの社会、どちらが本当の意味で孤独でしょうか？ 誰からも理解されず、自分に興味を持って

もらえないことが、何より人を孤独に思うと思います。

若者たちはLINEやフェイスブック、インスタグラムなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を使いこなし、人とのつながりは濃厚そうに見えますが、SNSによって自由が奪われてしまっている人が多いのも事実です。SNSの友達は大勢いるのに、本音は誰にも言えないという人は、実は多いのではないのでしょうか？

「おはよう」などのあいさつや、フェイスブックの「いいね」といったコミュニケーションは、浅いコ

ミュニケーションと言えます。それにも意味はありますが、やはり人には深いコミュニケーションが必要です。悩みや感動を語り合うなど、自分の深い部分で他人とコミュニケーションがとれると、「自分がここに生きている」ということが実感できるでしょう。

最近、気になっているのは、感動に他人の目が入り込んでいるのではないかということです。インスタグラムなどで写真をアップして楽しんでいる人も大勢いますが、「このシーンを写真に撮ってみんなに見せよう」と考えて写真を撮るのでは、果たしてそこに自



うえだ のりゆき ● 1958年、東京都生まれ。東京大学大学院博士課程修了。86年よりスリランカで「悪魔祓い」のフィールドワークを行い、その後、「癒し」の観点をいち早く提示して注目される。2016年4月より現職。『がんばれ仏教！』（NHKブックス）、『生きる意味』（岩波新書）、『かけがえのない人間』（講談社現代新書）など著書多数。

心豊かに生きるには

東京工業大学教授・リベラルアーツ研究教育院長
上田紀行さんに聞く



1 年生対象の『東工大立志プロジェクト』の一コマ。専門教育だけでなく、社会性と人間性を兼ね備えた「志」ある人材を育成することに取り組んでいる (写真提供：東京工業大学)

分の本当の感動はあるのでしょうか。「他人に見せられるいい風景」ではなく、自分自身がその風景と向き合い本当に感動しているのか、考えてみることも必要だと思います。

悩みを吐き出すのは いけないことか？

「深い言葉」は、感動などポジティブなものだけではありません。悩みや苦しみも、自分自身の「深い言葉」です。ただ、いまの若者たちは、「他人の迷惑になってはいけない」ということが刷り込まれていて、「悩みなど重たい話をする」と人の迷惑になる」というマインドがとても強いですね。

自分がやりたいことと人に迷惑をかけることは、常にトレードオフの関係にあると思います。私は「我がまま」と「ワガママ」という言い方をしていますが、押し付けられた価値観ではなく、自分自身の人生を取り戻すことは、抑圧された自分自身から解放され、「我がまま」に生きることです。ただし、それは自己中心的で周りを意に介さない「ワガママ」となる可能性もあります。いまの若者は、自分の悩みや苦しみを打ち明ける

ことを「ワガママ」だと考えているようです。

公共の場でゴミを捨てることは迷惑になりますが、「苦しい」「死にそうだ」という切実な思いは、ゴミと同じなのでしょうか？ それを吐き出すことは「ワガママ」なのか？ 私は、「あなたの悩みはゴミではありませんよ」といつも言っています。

「友達100人つくろう」 はやめよう！

人とつながりにくい世の中で、どうすれば豊かな人生が送れるのでしょうか。まず、「友達100人できるかな？」はやめること（笑）。100人全員に受け入れられるメッセージを発信することなど、ひと握りの音楽家や作家ならともかく、一般市民の私たちにはまず無理です。

自分が本当に気を許せる友人を2人持てれば十分です。1人ではダメ。「私のことをすべて認めてくれる彼氏／彼女さえいてくれればいい」では、相手に圧力がかかりすぎてしまう。それでは、彼氏や彼女が「神様」のような存在になってしまいます。

他の国にはたいてい、信仰があ

——「苦悩」を受け止められる社会に



東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院が8月16日に開催したシンポジウム「現代の社会と宗教 1995～2017」のようす。会場に収まらないほどの盛況ぶりだった (写真提供：東京工業大学)



り神様がいます。神様とは、必ず私を救ってくれる存在。いまの日本人にはそうした存在がないため、彼氏／彼女や親友だけでは危険なのです。

私たちは数字に弱いので、友達が大量にいる方が豊かな人生が送れるような錯覚をしています。量よりも質にこだわしましょう。そして、そうした相手と心にタッチするような深い言葉で話せているか、時々確認してみてください。

悩みを打ち明け 周囲のやさしさを引き出そう

悩みや苦しみを吐き出した時、言われた方は迷惑に思うでしょうか？「自分に話してくれた」「私って信用されているのかな」と、悪い気はしないものです。自分の悩みや苦しみを、周りの人に語りかけていくのは、支え合いながら生きていくことの第一歩になると私は思います。

自分以外の人は、楽をして楽しく生きているように見えるかもしれませんが、そういう人も実は何かに苦しんだり、不安や葛藤を抱えているかもしれません。悩みや苦しさを受け止め合い、みんなの中にいる人の温かさを引き出すこ

とができたら、それは豊かな人生につながっていきます。

私は20代の頃、スリランカの「悪魔祓い」を研究していました。スリランカの田舎では、共同体で一番孤独な人に悪魔が憑くと言われていて、それを共同体全体でお祓いするのが「悪魔祓い」ですが、そこで救われるのは悪魔が憑いた患者ではなく、そこにいる全員なのです。なぜならば、苦しんでいる人を救う現場に立ち会うことで、自分自身もいつか救ってもらえると思えるからです。

翻って日本ではどうでしょうか。苦しくても誰も救ってくれない社会だと思っから、若者たちは刃物を持って「誰でもいいから殺したかった」と事件を起こすのではないのでしょうか。苦しんでいる人を見捨てない社会であることを、私たちは、将来を担う子どもたちに見せていかなくてはなりません。経済的に豊かであることよりも、たとえ貧しくても助け合いが機能している社会の方が、そこで暮らしている人は幸せだし、本当の意味で豊かな社会だと思えます。お金よりも「思いやり」をもっとこの社会に流通させたいですね。

武蔵野赤十字病院

- 所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1
- 連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
- 病床数 611床(一般528床、ICU 8床、HCU 22床、CCU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症20床)

周産期母子医療センター

看護師長

林 雅代

Masayo Hayashi



アドバンス助産師の活躍に期待

母と子の「産む力」「育つ力」を応援

武蔵野赤十字病院には、日本看護協会の認証制度で認定された「アドバンス助産師」が18人在籍しています。高い専門性を妊婦さんのケアに生かしています。

日本看護協会では、2015年

8月に助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)「CLOCMP(クロックミップ)」レベルⅢ認証制度が開始され、当院でも2016年12月に18人の助産師がこの認証制度でレベルⅢの認証を受けました。

認証を受けた助産師は「アドバンス助産師」と呼ばれ、自立して助産ケアを実践できる能力を認証されていることから、院内助産や助産師外来などで専門性を発揮することが期待されています。

助産師による

きめ細かな保健指導

当院では、2004年から助産師外来を開設しており、助産師が主体となって妊婦さんの個性にあわせた保健指導を行っています。現在は医師の産科外来と同様に助産師がエコーを使用して診察できる技術を習得しています。

胎児の計測だけでなく、お腹にいるわが子の状態を詳しく伝えることで、母子の愛着形成を促しています。妊娠中から助産師に具体

的な相談ができ、妊婦さんたちの満足度は高いものになっています。

妊娠期から育児期まで 切れ目のないサポート

当院は地域周産期母子医療センターとして、ハイリスクの妊産婦褥婦と新生児の搬送受け入れ、母体の救命救急への対応を行っています。周産期センターには、アドバンス助産師を筆頭に総勢77人の助産師がいます。その助産師が妊娠期から分娩期、産褥期、育児期と切れ目のない関わりをすることで、母と子の「産む力、産まれる力、育てる力、育つ力」を最大限に引き出せるよう関わっています。

そして、地域の皆さまのニーズに応え、信頼される安全安心なチーム医療を提供し、満足のいく出産をめざしています。そのためには、アドバンス助産師の高い実践能力が不可欠です。こうした助産師がいることが当周産期センターの自慢であり、さらに多くの場での活躍を期待しています。



アドバンス助産師は医師と同様、エコーを使って妊婦さんを診察します



周産期母子医療センターのスタッフたち

Hospital
Referral

大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(急患は随時)
- 病床数 344床(一般326床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

高齢化が進むなか、入院患者さんを「寝たきり」にさせないよう、大森赤十字病院のリハビリテーションは平成24年度から大きく変わりました。

廃用症候群を防ぐために

急性期リハビリテーションの取り組み

高齢化により、急性期病院でもリハビリテーション(リハビリ)を早期に開始する必要性が高まっています。骨折や人工関節などの整形外科疾患、脳血管疾患、心臓・呼吸器やがん、それ以外の疾患でもリハビリは極めて重要です。

早期の離床で生活づくり

治療のため安静にして運動量が減ると、筋肉がやせて関節も硬くなります。こうした症状を「廃用症候群」と言います。高齢者にとつては、1人で歩けなくなる、トイレができなくなる、ひいては寝たきりになるなど、重大な問題をもたらします。

大森赤十字病院では平成24年度から急性期リハビリを一層充実させ、廃用症候群の予防に取り組んでいます。必要以上の安静や活動量の低下を防ぐために、手術後などに早期のリハビリ開始・離床・寝食清潔排泄分離を行っています。

日中はベッドから離れてできるだけ体を動かし、夜は十分な睡眠をとるといった、人が生活する上

で当たり前の環境を整えた結果、リハビリの1日当たりの実施件数は約150人と取り組み前から倍増し、入院患者さんの半数近くを占めるまでになりました。

現在、リハビリの専門職種である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が合計53人在籍し、充実したリハビリを365日体制で提供しています。

多職種のチームで支える

患者さんが抱える問題は人によってさまざま。そのため、社会復帰をめざすリハビリは、医師や看護師、薬剤師、社会福祉士など、患者さんを中心に多職種からなるチームで実践されています。各病棟、診療科での多職種によるカンファレンスやリハビリスタッフの病棟専従配置などを行いながら、いつでもどこでも誰とでも、患者さんのことについて相談し、話し合うことを大切にしています。

患者さんが入院中も退院後もその人らしい生活を送れるよう、チーム全体で支えています。



当院のリハビリスタッフ一同



ベッドから早く離れて生活できるように

葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表)
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床 (産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

助産師

土本 綾子

Ayako Tsuchimoto



妊娠中から健やかな体づくり

妊婦向けのエクササイズクラス

葛飾赤十字産院では毎週金曜日、妊婦さんを対象としたマタニティヨガとマタニティビクスのクラスを開催しています。

妊婦さんが運動するというと驚く人も多いかもしれません。初めて参加した妊婦さんも、「こんなに動いて大丈夫なんですね」と驚かれます。もちろん、むやみに誰でも運動してもいいというわけではありません。当院では赤ちゃんとお母さんの安全を第一に考え、受講にあたっては医師による診察と許可が必要になります。受講が可能なのは妊娠16週から出産直前まで。インストラクターの資格を持つ助産師が講師を務めます。

体重のコントロールや陣痛中の呼吸にも役立つ

妊娠すると、赤ちゃんの成長とともにお母さんの体にもさまざまな変化が起こります。腰痛や足のむくみ、便秘、肩こりなどに悩む人も。そこで、こうした症状の予防と軽減、体力・筋力づくりなどのプログラムを組んでいます。

マタニティビクスは主に体力づくりや筋力アップ、体重のコントロールに効果があります。音楽にあわせて体を動かし、除々に心拍

数が上がるよう運動量をあげていきます。当院のクラスに7回以上参加した人の体重コントロールに効果があったという研究結果も出ています。マタニティヨガは特に呼吸に意識を向けながら体を動かします。呼吸に意識を向けることで気持ちが整い、集中力が高まります。陣痛中は呼吸に意識を向けることで痛みがやわらぐと言われているため、実際の出産のときにも役立ちます。

どちらのクラスも、参加する妊婦さんの体の調子にあわせて動かし方や動かす部分を変え、それぞれにあった動きができるよう工夫しています。クラスの最後には妊婦さん同士で話しながらペアでストレッチする時間も設けており、今の状況や悩みを共感、共有する場にもなっています。参加した妊婦さんからは「妊婦仲間もでき、妊娠ライフが楽しく送れた」などと好評です。

今後も妊婦さんの健康づくりを支援できるよう、より良いクラスを開催していきたいと思っています。



音楽にあわせて体を動かすマタニティビクス



マタニティヨガで心と体を整える



安全な輸血をめざし奮闘中！

～赤十字病院輸血部のおシゴト～

皆

さまに献血していただいた血液は、輸血を必要としている患者さんの待つ医療機関へ届けられます。武蔵野赤十字病院血液内科輸血部の高野弥奈先生は「患者さんの命を救うために、輸血とそれを支える献血は不可欠です」と語ります。

病院全体でも話し合い

血液が届けられる輸血部の仕事は？

当院では責任医師1人、担当検査技師2人が業務を担当し、主に輸血用血液製剤の管理や血液型検査などを行っています。製剤によって温度管理も異なるため、輸血までに温度変化が最小限になるように工夫しています。

輸血を行うのは内科、外科、産婦人科など多くの診療科にまたがり、関わる職種も医師、看護師、臨床検査技師などさまざま。そのため定期的に輸血療法委員会を開き、病院全体で安全な輸血が行われるよう話し合いをしています。

——献血はなぜ必要なのですか？

今の技術では血液のすべての成分を人工的につくることはできません。病気で血液の成分がつかれない場合や大量出血の場合は、赤血球や血小板を早急に補充しないと生命に

関わることも。そうした患者さんにとっては輸血が唯一の治療なのです。

——輸血の大半はがん等の病気で治療ですが、その他の緊急・大量輸血というのは、どんな時？

当院では平成28年度に11件、今年度は半年ですでに13件の緊急輸血が行われましたが、うち7件は出産に関する治療でした。早急な輸血で命が救われ、お母さんと赤ちゃんが元気に退院できると、本当にうれしいですね。

定期的な献血への協力を！

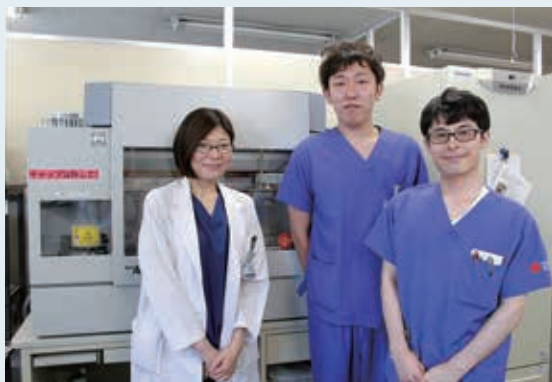
——『NT』読者へ一言。

病気やケガはいつ起きるか予測できませんし、輸血もいつ・どのくらい必要になるかわかりません。しかし、輸血用血液製剤には有効期間があります。患者さんがいつでも最適な治療を受けられるよう、定期的な献血へのご協力をお願いいたします。



高野 弥奈 *Hina Takano*

武蔵野赤十字病院血液内科輸血部部長。大学で輸血に関する講義を行うなど、献血啓発活動に尽力している。



武蔵野赤十字病院血液内科輸血部のメンバー。左端が高野先生、後ろの機械は「輸血部一の働き者」と言われている全自動の検査システム



血液センターとの血液の受け渡し。供給された輸血用血液製剤を確認する

青少年の1円玉募金が世界を救う

～青少年赤十字海外支援事業～



学 校に行くことができない子どもは世界中で約5900万人います。5歳までに命を落としてしまう子どもは年間に約590万人、トイレが利用できない人は約24億人、紛争や災害の影響を受ける子どもは約5億3500万人にのぼります。

日本赤十字社の青少年赤十字事業では、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年を育成しています。

ネパールとバヌアツを支援

青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」の一環として、青少年赤十字メンバーが集めた1円玉募金を財源の一部として、2017年4月から3か年計画で、ネパールと南太平洋の島国・バヌアツを対象に、衛生教育や衛生環境改善、防災教育の普及を進めていきます。

日本の子どもたちの優しさを世界の子どもたちの笑顔につなげる取り組みです。



衛生環境改善や防災教育の充実めざして

ネパールでは衛生環境の改善が国家の最重要課題ですが、特に地方での衛生環境の改善が遅れており、また、2015年の地震の影響もあり、学校の衛生環境は悪化しています。そのため、トイレなどの衛生設備を、年齢・障害・男女の違いなく快適に使えるように改善します。あわせて、手洗いの大切さや月経衛生管理（月経の仕組みを学んだり布ナプキンを作成）などの知識を普及し、学んだ知識を子どもたちから地域に伝え、地域全体の衛生環境の改善をめざします。

バヌアツは、世界で最も災害に弱い国のひとつ。とくに地震や津波などの災害に対する学校教育が不十分であることから、

①防災・減災の教材を開発し、カリキュラムに組み込む、②避難訓練や救急法の実施、③国の教師養成学校における防災減災ツールの開発と活用を行っています。



バヌアツの学校の子どもたち



ネパールの子どもたちは不衛生なトイレの使用を強いられている

赤十字国際ニュースのメールマガジンに登録しませんか？ 定期的にニュースがお手元に届きます。登録・閲覧はこちら↓



赤十字国際ニュース
(まぐまぐ)

武蔵野赤十字保育園

夏だ！ プールだ！
ドジョウすくいだ！



「準備体操イチ、ニイ、サン！」——さすがに年長さんはみんな上手



ドジョウつかまえたよ〜。かわいいでしょ？

武蔵野赤十字保育園では6月29日にプール開きを行いました。まずは、3歳から5歳の園児105人がホールに集まり、「飛び込まない」「お友達を押さない」「準備体操をしてからプールに入る」など、プール遊びのお約束をします。また、それぞれの年代で達成する泳ぎについても確認合います。

顔にお水がかかってもへっちゃら！

そして、いよいよプールですが、その前に恒例のドジョウすくい。この日のために園児たちは、捕まえたドジョウを入れる容器をつくっており、これにドジョウを入れてお家に持って帰ることになっています。

ドジョウすくいの後は、いよいよプールで初泳ぎ。顔にお水がかかってもへっちゃらです。園児たちの歓声がいつまでも響いていました。

保育園は真夏も休みがないので、8月末まで子どもたちは毎日プール遊びを楽しみます。元気いっぱい水と親しみ、上手に泳げるようになって、最後のプール大会でも成果を出すことができました。

赤十字子供の家

二階堂ふみさんが
子供の家にやって来た！

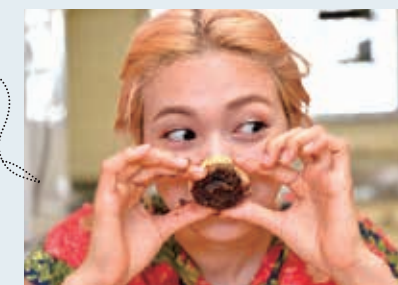


7月某日、雑誌『RiCE』の取材で女優の二階堂ふみさんが来園され、子どもたちとの昼食づくりや園庭での遊びを楽しみました。子どもが大好きな二階堂さんが、毎回子どもたちとふれ合いながら「大切なもの＝母の味を伝える」という連載企画の取材でした。

おはぎと素麺づくりを楽しむ

この日のメニューは、おはぎと素麺。子どもたちもエプロンや三角巾をきちんと着けてスタンバイ。子どもたちも手伝えるメニューにしたので、みんなで料理を楽しむことができました。みんなでつくったお昼ごはんは絶品！どの子も満面の笑みで、「美味しいね」「一緒につくったね」と会話も弾みながらの食卓となりました。

食後には園庭に出て、みんなで遊びました。この頃には子どもたちと二階堂さんもすっかり打ち解け、三輪車に乗ったり走り回ったり、大きな笑い声が響き渡っていました。二階堂さんがすべり台などで子どもたちと同じ目線になって遊ぶ姿はとても楽しそうで、子どもたちもその雰囲気ですっかり影響され、いつもと変わらない姿とたくさんの笑顔を見せてくれました。



美味しそうなおはぎも、楽しむアイテムになっちゃいました！



みんなで
よーいドン!!
子どもたちが
速い速い!!

「生きる力を育み、自立へと共に歩む」を 基本理念とする、赤十字子供の家

赤十字子供の家 園長 寺田 政彦



6割は虐待を経験

入所している子どもの6割が虐待を受けた経験があり、最近ではネグレクト（育児放棄）も増えています。親自身が虐待を受けていたことも多く、親へのカウンセリングなどの支援も必要です。核家族化が進み、子どもとの接し方がわからない親も増えていることから、児童相談所や医療関係者とも連携しながら、子どもとうまく関わるためのケアも実施しています。退所していく子どもの約半数は家庭に復帰しています（残り2割が里親、3割は施設変更）。可能な限り家庭復帰をめざし、親のケアや親子関係の再構築のため、面会などの交流にも力を入れています。

12月の完成をめざし移転新築

移転から35年が経過し、設備の老朽化が深刻化しているとともに、プライバシーを守るための個室など必要になっていくことから、今年12月の完成をめざし、新しく建て直しているところです。新しい施設には専用の心理治療室も設け、きめ細かいサポートが可能になります。子どもたちをより長い目でケアできるよう、18歳まで受け入れていく予定です。信頼関係が福祉の基本。子どもたちには、信頼できる大人がいることを知ってもらい、それが生きていく力の源になればと願っています。退所した子どもたちが幸せに成長していく姿を見届けられることが、私たちの何よりのやりがいです。



「赤十字子供の家」新築に向けた資金への協力を募集中!

期間 2017年8月21日(月)～10月31日(火)

新築費用のうち、一部の不足資金(500万円)をクラウドファンディング(インターネット上で広く資金を募る方法)で募集しています。こちらは、クレジットカードまたは銀行振込でご協力いただけます。さまざまな事情から家族と暮らせなくなった子どもたちが、自分らしく生きられる空間をつくるために、皆さまのご協力をお待ちしています。

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

Readyfor 子供の家

検索



こんにちは！今回は40人の子供たちが暮らす、赤十字子供の家にトッパキです。子供たちの笑顔の笑みにつられて、わたしもほっぺが痛くなるくらい大笑い！子供たちのパワーは大人の想像以上です。みんなの未来をえるために、わたしに出来ることは何だろう？と深く考えました。

行け！
OLポタ-板4★日赤とけきレポ

-Vol.9 赤十字子供の家編-

職員と一緒に
焼きトモコ屋台の
準備！

ひまわり！
みんなさあ！

なんと！この日は夏祭りの
2日前！！

武蔵野の曲豆かな
自然を感じるな！

家庭復帰のため、
より家庭に近い環境で子どもたちが
暮らせることが理想です！

一緒に暮らすお部屋！

ここは職員と、
ばちたち6人か！
わたしは

お外から帰たら
手も洗ってね！

みんなおき伝い
ありがと！

今の施設にはないけれど、
もしお部屋にキッチンが
ついていたら...

たくさんのおき伝いは、
卒園後の子どもたちの自立も
後押しできるんだ！

私も、
子どもたちの
笑顔が
守りたい！

子供の家は、
みんなのやさしさで
成り立ってるんだね...

END

献血の推進に

今後も協力していきたい

竹之内 勉さん(川瀬不動産代表取締役社長)

新

宿区は今年で、区成立70周年。その新宿の安心・安全を守り、賑わいを絶やさないとこの思いから新宿大通商店街振興組合の理事長も務めるなど、まちづくりに力を入れ、取り組んでいます。

今から22年前、「新宿駅東口にどうしても献血ルームを開設したい」という熱い思いを持った日赤の職員さんが相談に見えました。血液は人工的に作ることができませんから、社会貢献の意義も感じてお貸しすることを決めました。

その後、新宿東口献血ルームは歴代の所長、スタッフの努力により日本一の献血協力者数を達成するなど、熱い思いは受け継がれています。

このビルに献血ルームを受け入れたことで、多くの命を救うことができているのだと実感できていること、そして新宿の街を守り、社会に貢献できるということは、私にとってとても嬉しいことです。今後も、できることは協力させていただきたいと思っています。



新宿のために力を尽くしている竹之内社長
(新宿東口献血ルームが入居しているビルのオーナー)



「子どもたちの成長を見るのが楽しい」
と話す郷原先生

中

学校で理科の教師をしています。若い頃、「教員対象のリーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン) 開催」という小さな広告を見つけたのが赤十字との出会いでした。

教師としてもっと勉強したいと思っていたので参加したところ、よく練り上げられた素晴らしいプログラムで、本当に感動しました。以来約30年、トレセン(小中高の各校種で開催)に指導者として関わり続け、現在では、中学校のトレセンのセンター長を務めています。

参加する子どもたちの顔は最初、不安いっぱい。それが、半日ごとに表情が変わっていくんです。一言も発言しなかった子が、4日間のプログラムを経て手を挙げて意見を言えるようになったことも。指導する教師も一緒に成長させてもらっています。

赤十字が青少年の育成にも貢献していることを、多くの人に知ってほしいですね。

(トレセンについてはp6参照)

子どもたちが成長する

トレセンに魅力を感じて

郷原真子さん(足立区立谷中学校教師)

活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区		橋本 養三	30万円	中里建設(株)	10万円
(株)木村洋行	200万円	(一社)大森倶楽部	100万円	●葛飾区	
(株)日本翻訳センター	70万円	(株)三功工業所	100万円	酒井 照子	10万円
(株)エムエルシー西銀座営業部	61万4,407円	●世田谷区		(株)稲葉製作所	20万円
(株)朝日写真ニュース社	30万円	伊奈 良和	500万円	(有)石川興業	10万円
ウェブスペース(株)	10万円	五来 純	200万円	●江戸川区	
(株)エフプランニング	10万円	小嶋 淑子	100万円	東京デザインハウス(株)	50万円
(一財)大妻コタカ記念会	10万円	田中 初枝	60万円	(株)三和製作所	10万円
日軽エムシーアルミ(株)	10万円	(株)ウッディ	10万円	(有)明和ビルサービス	10万円
日本ノーデン(株)	10万円	みその商事(株)	10万円	●八王子市	
●中央区		●渋谷区		飯島 清子	500万円
梶原 幹雄	10万円	(株)ドクタートラスト	50万円	●立川市	
山村 恵津枝	10万円	ジャパンセラミックス(株)	10万円	立川市赤十字奉仕団奉仕団まつり	10万1,000円
山戸田 浩一	10万円	第34回全日本ウエイト制空手道選手権大会	10万円	●武蔵野市	
東京築地中央市場福祉報徳会	100万円	第6回全世界ウエイト制空手道選手権大会	10万円	齋藤 八郎	10万円
●港区		2017国際親善空手道選手権大会	10万円	●三鷹市	
三橋 七郎	10万円	日本ビー・エックス・アイ(株)	10万円	河合 直子	20万円
イーパートナーズ(株)	30万円	矢崎不動産オフィス(株)	10万円	柿澤 康子	10万円
エートキョー(株)	20万円	●中野区		志賀興業(株)	20万円
(株)テレビ東京	10万円	佐藤 みゑ子	10万円	●青梅市	
(一社)日本血液製剤機構	10万円	●杉並区		片山 宗弘	10万円
日本フレーバー工業(株)	10万円	齋藤 隆	50万円	片山 恵利	10万円
(株)日ノ樹	10万円	石井 明	10万円	●府中市	
●新宿区		岡部 好延	10万円	匿名	10万円
下島 博雄	50万円	金森 満寿枝	10万円	●昭島市	
出井 弘八	20万円	(株)石井薬局	10万円	三浦 寛子	15万円
小沢 勇夫	10万円	(有)多田美波研究所	10万円	●調布市	
清水 健	10万円	人仁の会	155万407円	魚返 美智代	100万円
(株)OEC	10万円	●豊島区		ユウキ食品(株)	40万円
●文京区		芹川 晴彦	180万円	ユウキフーズシステム(株)	30万円
根津 博俊	10万円	住友機材(株)	30万円	(株)オリヴ ドゥ リュック	20万円
(株)加藤萬製作所	20万円	新興電機(株)	10万円	●町田市	
(株)アークステーション	10万円	6etアプリ(株)	10万円	神蔵 嘉一	500万円
●墨田区		●北区		近藤 徳彌	50万円
角谷 かつみ	20万円	坂田 建太郎	10万円	(株)ユニテックス	100万円
深井 靖次郎	10万円	●荒川区		(株)ソルシステムズ	50万円
(株)ゴトウ	40万円	匿名	10万円	●小金井市	
(株)エスビック	10万円	根津鋼材(株)	100万円	ムサシノアロー(株)	10万円
●江東区		(株)トリガ	20万円	●日野市	
北島 松太郎	20万円	(株)美箔ワタナベ	20万円	伊藤 岑夫	100万円
坂元 左	20万円	●板橋区		●東村山市	
(一財)東京都営交通協力会	100万円	(有)エメティ・エイト	20万円	中村 豊一	30万円
(株)秋朝工業所	20万円	医療法人社団櫻美会石川医院	10万円	●国立市	
(株)木場リサイクル	10万円	(株)つくし工房	10万円	保科 寛之	20万円
●品川区		●練馬区		●狛江市	
金森 利幸	10万円	匿名	2,000万円	加藤 朱実	10万円
長谷川 植夫・裕見	10万円	横山 浩之	30万円	高木 和江	10万円
(株)オーツカ光学	50万円	安藤 幸子	20万円	●多摩市	
品川合同葬祭(株)	10万円	(株)関建設工業	10万円	柚木 ミエ子	15万円
堀正工業(株)	10万円	●足立区		●稲城市	
●目黒区		飯塚 明	50万円	中西食品(株)	10万円
匿名	500万円	梶 富美子	30万円	●西多摩郡	
(株)原田畜産商店	10万円	鈴木 勇	10万円	久馬 美智恵	50万円
●大田区		鈴木 惣八	10万円	●埼玉県	
紺野 博	30万円	増山 元美	10万円	小森 里子	11万500円

(敬称略・順不同)

日本赤十字社東京都支部の協賛企業様からご提供いただいています。
ご応募、お待ちしております！

A.



500ml
24本入り
3名様

午後の紅茶おいしい無糖

“紅茶のシャンパン”と称される世界三大銘茶「ダーズリン茶葉」を使用。茶葉本来の豊かな香りと心地よい渋みを引き出した本格無糖紅茶。

B.



500ml
24本入り
3名様

まもるチカラのサプリ

●東京キリンビバレッジサービス株式会社

プラズマ乳酸菌を配合した、すっきり飲みやすく喉の渇きも癒せる、さわやかなヨーグルトテイスト。飲み飽きない味わいです。

C.



400g
24本入り
5名様

ワンダ 極 完熟深煎りブラック ボトル缶400g

●アサヒ飲料株式会社

創業80年を超える老舗「丸福珈琲店」が監修し、樹上でしっかりと熟し旨味が詰まった「完熟豆」を選別。低温でじっくり時間をかけて深煎りまで煎りあげました。

D.



3名様

スモールレザーグッズ(オレンジ)

ポニー(馬)素材を使用。小銭入れや小物入れに。日本製。

E.



3名様

エナメルレザーティッシュケース

●ダイアナ株式会社

発色の良いエナメルレザーを使用したティッシュケース。日本製。

F.



Mサイズ
(23cm~24cm)
各1名様

クラス・リフレクト(ブラック)／カノン(ボルドー)

●CLAUDIA.TOKYO

機能性とファッション性の両立を追求した、快適シューズ『CRAAS』。クッション性の高い「低反発性3Dインソール」を使用。外反母趾にも優しい設計です。

プレゼント応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤性別 ⑥メールアドレス ⑦本誌入手場所 ⑧本誌で良かった記事 ⑨本誌の感想(100文字程度) ⑩希望するプレゼント番号を明記し、はがきまたはメールでご応募ください。抽選でプレゼントが当たります！締切は2017年11月30日。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

■件名には「プレゼント応募」とご記入ください。

はがき ▶ 添付の専用はがきでご応募ください。

メール ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。
※お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただきます場合があります。

協賛品募集中心！お問合せは ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

前号のプレゼント当選者

① 青ヶ島特産「ひんぎゃの島とうがらし」

出雲 栄一 (世田谷区)
佐藤 理紗 (神奈川県川崎市)
小堀 美子 (中野区)

② 生茶

山崎 謙 (豊島区)
勝村 淳子 (新宿区)
山本 明美 (千葉県美浜区)

③ FIREエクストリームブレンド

谷合 光亘 (日野市)
矢部 朗 (台東区)
佐藤 真弓 (江戸川区)

※敬称略・順不同

④ オリジナルハンカチ

伊藤 道子 (町田市)
杉浦 佐知子 (墨田区)
加藤 正嗣 (豊島区)
片岸 勇 (台東区)
桂井 裕子 (渋谷区)

⑤ スモールレザーグッズ

児島 敦子 (狛江市)
佐藤 啓子 (杉並区)
今橋 弘美 (江東区)

⑥ カルピスウォーター

西村 一葉 (調布市)
井上 三恵 (府中市)
加美山 毅 (世田谷区)
鈴木 国悦 (府中市)
穂積 晴佳 (墨田区)



バックナンバーはこちら
<http://www.tokyo.jrc.or.jp/kohoshi/>

読者の声 (vol.14)

赤十字の活動の源は「人を思いやる気持ち」であり、なかなか日の当たらない青ヶ島の人々の生活や暮らしにスポットを当てたことは、私の今の立場を考えるととても大切なことを思わせてくれ感動しました。今後いろいろな取り組みに期待します。
東京都・53歳・男性(新宿東口献血ルーム)

病院食の特集ページは、特に興味深く読みました。個別対応が必要な患者さんの病院食への工夫、そしてすべての患者さんに用意される病院食に込められた愛情など、読んでいて頭が下がる思いでした。現場スタッフの方々に謝意を表します。
東京都・31歳・男性(渋谷ハチ公前献血ルーム)

※()はNTの入手場所

赤十字は、 ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい。
と言われることがあります。」

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を
限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性
を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解され
やすいかもしれません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることがあります。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から
人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に
対する取り組みなど、皆さまの身近なところで
活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが
当たることのないジミチな活動も大切にする。

これが赤十字のジミチです。

—— 皆さまからお寄せいただく活動資金はこのようなところでも活用されています。——

例えば、

大きな災害に備え、救援物資をすぐに被災者に届けられるよう整備しています。

¥ 500で

圧縮バスタオル



プレス加工により圧縮されたバスタオル。手でほぐすか、水などに浸けて戻してから使用します。

¥ 1,300で

毛布



運びやすく、また長期保管できるように真空パックにしてあります。開封してから5分程度でフカフカの状態に。

¥ 2,000で

安眠セット



災害時、避難所などで就寝する時に役立つセット。枕やアイマスク、耳栓も入っています。

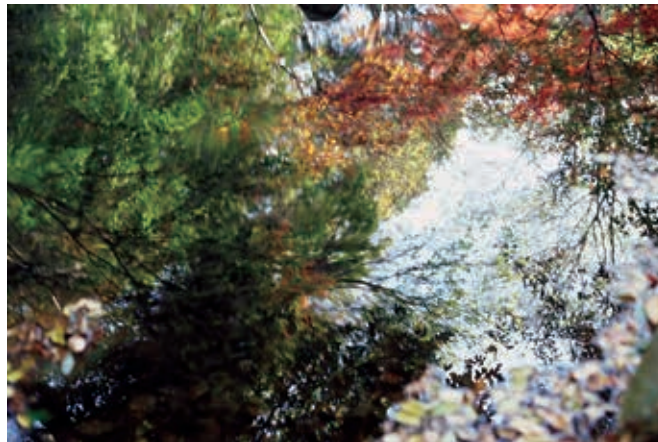
¥ 3,000で

緊急セット



被災され、避難所などで生活することを余儀なくされた時に、必要となるアイテムが収納してあります。

ジミチな活動が、必ず命を守ることにつながる。この思いを大切にしています。



第8回 調布市・深大寺

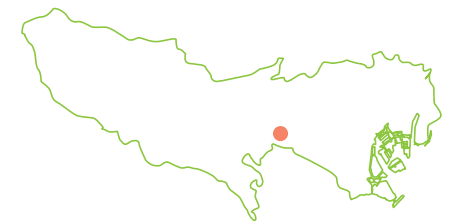
調布市にある深大寺を訪れた日は朝から雨模様。「雨の中、紅葉撮影会か…」という心配は、境内の紅葉を目の前にした瞬間吹き飛んだ。

視界を覆う、眩しいほどの紅・黄・茶色。

雨も途中で上がり、射し込んだ光にしっとりとした紅葉が映える。都内では浅草寺に次ぐ古刹である深大寺。その名前は、天竺を旅した玄奘三蔵の砂漠での難を救ったと伝えられる水神・深沙大王が由来だと言われているそうだ。

植物園や蕎麦で有名なのも、境内に湧水源が点在する水が豊かな土地柄ならではの。

そんな場所だからこそ、雨の中の紅葉がひととき艶やかだったのだろう。紅葉詣での我々を祝福してくれた水神様のなせる業…そう思えばあの美しさにも合点が行くというものだ。



+ 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を＜観光＞しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社契約写真家である菅原一剛氏。東京の写真撮影を続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>

講習の
ご案内

健康生活支援講習

誰もが自分らしく、健やかな人生を過ごすために

元気な高齢期を迎えたい方や、介護の知識を学びたい方に！

Concept

健康生活支援講習では、誰もが迎える高齢期を健やかに過ごすための知識や、身近な高齢者のお世話をするための介護の基礎知識が学べます。

- 高齢者自身の自立を支援します
- 学生や主婦、社会人などの現役世代も受講できます



講習のお申し込みや詳細についてはこちら

東京都支部救護課講習係 TEL : 03-5273-6746
<http://tokyo.jrc.or.jp/application/katei/index.html>

講習案内

支援員養成講習

- 【受講対象】 満 15 歳以上の健康な方
- 【時 間】 9:45 ~ 16:45 (2 日目は 17:30 まで)
- 【受 講 費】 1,100 円 (手数料 200 円含む)
- 【日 程】 ① 11 月 18 日 (土)・19 日 (日)
申込メ切 (必着) → 10 月 29 日 (日)
② 12 月 2 日 (土)・3 日 (日)
申込メ切 (必着) → 11 月 11 日 (土)
- 【会 場】 日本赤十字社東京都支部

どなたでもご参加
いただけます！

短時間プログラム

- 【時 間】 2 時間
- 【受講費】 100 円～

* 認知症、災害時の高齢者の支援など、さまざまなプログラムがあります。詳しくはお問い合わせください。



WEB CROSS
電 子 講 習 室



WEB上で講習の体験、予習や復習ができる
サイトです。ぜひご活用ください！



日本赤十字社 東京都支部
Japanese Red Cross Society

〒169-8540 東京都新宿区大久保 1 丁目 2 番 15 号
TEL 03-5273-6741 (代表) FAX 03-5273-6749 <http://www.tokyo.jrc.or.jp>

Facebook も見てね！

